



浄土真宗・お東

真宗大谷派 どうじょうじ  
道誠寺報

No.83

2025年11月28日発行



神宮外苑

いちよう並木

令和4年12月28日



画／百田 稔

まことに、死せんときは、かねてたのみおきつる妻子さいしも、  
財宝ざいほうも、わが身みにはひとつもあいそうことあるべからず。

蓮れん如によし上人しょうにん

2026

## 道誠寺 主要行事日程表

修正会(しゅしょうえ)

1月6日(火)14時

春季彼岸会法要

3月19日(木)14時

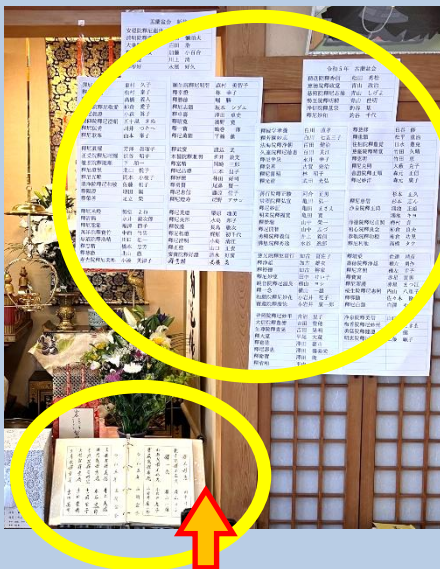
子ども 花まつり

4月5日(日)15時

盂蘭盆会法要

8月15日(土)15時

※秋季彼岸会法要や報恩講は次号あらためてお知らせします。

**春秋彼岸・盂蘭盆会について**

お寺の本堂では、参詣された皆さまと法要をご一緒にお勤めしています。  
参詣予定の方は、事前申し込みをお願いします。

**ご参詣のご都合がつかず、御布施を現金書留や銀行振込みにてお送りくださる方は、亡き故人さまの法名、俗名をお知らせください。**

俗名	法名	俗名	法名
<input type="checkbox"/>	釋尼	<input type="radio"/>	釋
<input type="checkbox"/>		<input type="radio"/>	〇
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	〇
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	〇

振込先は、他銀行からの振込みの場合

ゆうちょ銀行 宗教法人 道誠寺

店名 ○五八 ゼロゴハチ

普通預金 5129219

同じゆうちょ銀行からの場合

記号 10540-2

普通預金 51292191

ご自宅や本堂での戸別の参勤も承っていますので、ご依頼ください。





仏法をいっしょに学びませんか？  
 下記のとおり、さまざまな行事が  
 開かれています。まずは道誠  
 寺の同朋会へどうぞ。  
 道誠寺の行事は下の表の黄色  
 の部分をご覧ください。

月	日時	行事名	開催場所
1 月	6 日(火)14 時	修正会	道誠寺
	22 日(木)14 時	同朋会	道誠寺
	26 日(月)13 時 30 分	親鸞教室	松戸市西蓮寺
2 月	13 日(金)13 時	千葉組合同研修会	松戸市西蓮寺
	26 日(木)14 時	同朋会	道誠寺
3 月	13 日(金)13 時 30 分	門徒会春季法話会	柏市浄真寺
	19 日(木)14 時	春季彼岸会法要	道誠寺
	24 日(火)13 時 30 分	親鸞教室	松戸市西蓮寺
4 月	5 日(日)15 時	子ども 花まつり	道誠寺
	23 日(木)14 時	同朋会	道誠寺
5 月	28 日(木)14 時	同朋会	道誠寺
6 月	1 日(月)13 時 30 分	親鸞教室	松戸市西蓮寺
	25 日(木)14 時	同朋会	道誠寺
7 月	9 日(木)14 時	おみがき会	道誠寺
	23 日(木)14 時	同朋会	道誠寺
8 月	15 日(土)15 時	盂蘭盆会法要	道誠寺
9 月	24 日(木)14 時	秋季彼岸会法要	道誠寺

上記行事の日程は変更の場合もありますので、ホームページをご  
 確認、あるいはお寺へお問い合わせください。(047-337-5305)





## 行事報告

7月10日  
おみがき会

お盆の法要前に  
仏具を磨きました。

ご奉仕お手伝い  
いただいた皆さま  
のおかげで本堂  
のお荘厳はいつ  
もピカピカです。



8月15日  
盂蘭盆会法要

お盆の法要をご参集く  
ださったご門徒と一緒  
にお勤めしました。

亡き人を偲びながら、お  
念仏を申して、浄土真  
宗のみ教えを聴聞する  
大切な御仏事です。

ぜひお参りください。







10月23日同朋会↑



9月25日 秋季彼岸会法要・同朋会↑

道誠寺本堂以外の行事では・・・

### 9月11日 聞法会とぶどう狩り

山梨県のご門徒の Kさんの自宅で開かれたご法座にお参りました。  
お二方のご講師・藤谷真之師(山梨県笛吹市佛念寺住職・写真右)  
百々海真師(東京都港区了善寺住職・写真左)のご法話を聴聞し、  
その後はお斎をいただき、語らいの時間がありました。



『有縁の知識』という西村見暁先生の本に、先生とお婆さんの問答があります。救いとは私にとっていったい何であるかを教示する一節をご紹介します。

朝、私の講話が終わりますと、七十ばかりになるお婆さんが残られまして、折入ってご相談がしたいということで、どういふことか聞いてみますと、このお婆さんも何十年お説教を聞いてきたけれども、どうしてもはつきりいただけないから、どうぞお聞かせ願いたいというのであります。

そこで私が申しますに、「あなたはなぜ仏法をお聞きにならねばならぬのですか」と言いますと、

「御信心がほしいからです」と言う。

「それでは、なぜ御信心がほしいのですか」と聞くと、

「極樂さまへ参りたいからです」と言われるのです。

そこで私が尋ねるには「しかし、それは本当ですか」。

すると、「本当です」と言う。

「それじゃ、今すぐ参りましょうか」と言ったら、返事をされない。

「それ、ごらんなさい。やっぱり本当に参りたいんじゃないでしょう。今ガラガラと地震がきたら、あなたはどうしますか。血相を変えて飛び出すでしょう」。

「そうです」。

「それでは、あなたの本心は、極樂へ参りたいのか、娑婆に参りたいのか、どちらですか。大体、あなたは極樂へ参るといふけれども、極樂があると本気で思っておるのですか」。

「いや、本当はよくわからぬのです」。

「本当にあるかないかはわからぬような極楽へ、本気に参りたいと思われませんか。」

極楽はありと聞けど片便り

冷や飯くうても娑婆に参りたい

という一休さんの歌があるじゃありませんか。あなたの本心はやっぱり娑婆に参りたいというところじゃないですか。」

「そう言われればそうです。」

「それでは何が何でも生きて参りたい、というのがあなたの本心なのですか。」

「そうです。」

このお婆さんは極楽へ参りたいと言っておられたけれども、よく叩いてみると、極楽参りは看板であって、娑婆に参りたいというのが本心だということです。

私は仏法を聞くには、自分の本心をごまかさない、正直に自分を見ることが大事だと

思います。本心をごまかしておいて、仏法が聞こえるはずがないと思います。

そこで私はそのお婆さんに言ったのです。

「あなたが生きていきたいが一心なら、一生懸命に生きておればよいでしょう。」

「ところが生きておれないから困ります。」

「しかし、あなたは死にたくないんだから、あなたにできることは生きておることより仕方がないでしょう。」

「ところがそれができません。」

「それではあなたが死ぬんじゃないくて、死にたくないあなたが殺すのでしょうか。誰か知らないが、あなたでない誰かが、あなたを殺すんじゃないですか。」

「そうですね。」

「そのあなたを殺すのは一体誰ですか。」

「無常の風です。」



「そうです、無常の風があなたを殺して、ひっそらってゆくのです。そんなにしてさらわれてゆく身分のあなたが、そのひっそらってゆく者に向かって、行き先の注文をつけて役に立ちますか」。

「立ちません」。

「それじゃ、連れてゆかれるところへ、ついてゆくだけでしよう」。

「そうです」。

そこで、私が言いました。

「その無常の風が阿弥陀様ですよ」と。

その時、その婆さんはサツと身じまいを正して合掌されたのです。そして眼にいっぱい涙をためて、「ありがとうございます。今まで阿弥陀様を遠いところへおいておりました」とお礼を言われたのであります。

死にたくないでいいの私と、その私に吹きまくる無常の風、これが私どもの直面する最

後の事実です。このほかに阿弥陀様もなければ、お浄土もありません。

#### 〈中略〉

このぎりぎりいっぱいの実事がハッキリしてくると、腹が坐ります。そのぎりぎりいっぱいとは、私に吹きまくる無常の風と、その風に吹きまくられるこの私であります。このこと一つが絶対の事実であってみれば、この事実から逃れようはありません。ただ順うよりほかに道はありません。

「はい」、この一言よりほかに私に許された言葉はないのです。南無、阿弥陀仏とは、無常の風に「はい」ということです。

無常の風のほかに阿弥陀仏はおいではなりません。阿弥陀仏が無常の風となって、私を迎えておられるのです。娑婆に生きるよりほかに望みを持たない私を、有無を言わず浄土へ連



れてゆかれる、そのはたらきが無常の風であります。真宗で「逃ぐる者を救ける」と言われるのはこのことを申されるのであります。

私の自力は死にたくない、の一つ。その私が死ぬのですから、死はまったく他力によるのほかありません。死が他力ならば、死後にはかたは無用です。おまかせ以外に手はありません。

私の思いは「いや」「いや」の一点張り。その私がどうしてもこうでも、「はい」と言わせられるのですから、おまかせも自分がまかせるのではありません。信ずる心も、念ずる心も、これみな他力の回向によるのであります。

他力の他の字は、他人の他の字であります。ただ漫然とこんな字が使っているではありません。赤他人とは自分に相容れないものです。赤の他人と言いますが、これは全然通じない人と

いうことです。だから他力とは自分にとって、一番いやな力です。憎らしい力です。自分の一番大事なものを叩き壊しにくる仇、敵です。これが他力であります。

しかし、一旦、この他力に叩き壊されてみると、ここにこそ本当のお助けがあつた、大安心があつた、ということに目が覚めるのであります。

そして、この他力は、この一事に目を覚まさせるまでは、そのはたらきをやめられない大悲であります。私どもはこの他力の大悲によって、目を覚ますことを誓われておるのであります。私どもはこの他力の誓いに随うよりほかに、自分の生死する道はないのであります。



『有縁の知識』数量限定でお寺にあります。



## 令和 8 年（2026 年）度の年回忌案内

回忌	命終された年
1 周忌	2025 年(令和 7 年)
3 回忌	2024 年(令和 6 年)
7 回忌	2020 年(令和 2 年)
13 回忌	2014 年(平成 26 年)
17 回忌	2010 年(平成 22 年)
23 回忌	2004 年(平成 16 年)
27 回忌	2000 年(平成 12 年)
33 回忌	1994 年(平成 6 年)
50 回忌	1977 年(昭和 52 年)

### ○年忌法要(ご法事)について

お寺の本堂、ご自宅のお内  
仏前、(墓前)でお勤めします。

日程や場所がお決まりになら  
れたら、お寺へご連絡ください。

予約をされた法要日程が近く  
になりましたら、法要日時や場  
所など、あらためてお寺までご  
確認をお願いいたします。

わからないことなどありました  
ら、お気軽にお問い合わせくだ  
さい。



真宗大谷派 <sup>どうじょうじ</sup> 道誠寺

〒272-0804

千葉県市川市南大野

1-26-31

TEL:047-337-5305

URL:

<https://dojyoji.com>

メールアドレス

ichikawadojoji

@gmail.com

住 職 釋光生

副住職 釋潤生

前住職 釋慈敬

